



目的とし、プログラム構成は、高レベルな舞台であったように思えます。プログラムの長紙も今までの日本吟道学院のイメージとは異なり新鮮で且つ新しいものへの挑戦的意欲を感じさせるものがありました。本会からも吟道コンクール、名吟名舞競演の花舞台、そして特別構成番組吟詠組曲「黒潮の祈り」等に吉永洲神理事長・龍陽会長を中心として出演されました。忙しい師走の折に南洲吟道会からも多くの会員の方々が応援に来られました。局

### 八王子南洲吟道会創立十周年記念祝賀会開催に思う

八王子会 岩波芳城

八王子南洲吟道会は、昭和が終りを告げて間もなくの平成元年二月一二日に呱呱の声をあげ、今年でめでたく十周年を迎えた。現在橋本清龍会長ご指導のもと一四名(内女性四名)が月三日日曜日の午後、厳しさの中にも大変和やかに吟に励んでいる。当会のメンバーには、一昨年宮中歌会始めの儀で短歌入選の榮に輝いた若林華水さんや、広報紙にも時々投稿され漢詩にも大変造詣の深い脇成水さん他俳句等々にも堪能な多くの会員が顔をならべ、学園文化都市八王子にふさわしいアカデミックな雰囲気溢れている。

昭和六三年末より平成元年にかけて、発起人の橋本清龍会長から八王子市在住者中心に詩吟同好会発足の呼びかけがあり、積極的に参加したのも九名総員十名の船出であったが、うち一名以外は殆ど未経験者許りであり、初めは声を出すのも恥ずかしく、一体どうなることかと心配したが、先生のご指導よろしく今に至るも一人も欠けることなく、現在九段・助教教授一名、以下全員が八段・師範となつていていることも有難く嬉しい限りである。又その後入会の会員も四段・五段・六段と頑張つて夫々楽しく有意義な吟道人生を満喫している。

創立十周年記念祝賀会は橋本会長以下皆の発意により準備が進められ、重要な十年の節目を祝つて去る二月八日立川市のリーセントパークホテルにて開催された。当日は若坪博秀さん、近藤雅之さん等の来賓の方々及び南洲吟道会の吉永洲神理事長・吉永龍陽会長はじめ当会発展のためにご尽力頂いた南洲吟道会幹部の方々へ遠路ご出席を賜り、我が八王子会の会員を含めて総勢五〇名により午後二時その幕が切つて落された。会場には当会員の分担による準備が完了する前から早々と駆け付けて下さる方も多く、十周年に寄せられる熱気が感じられた。なお、吉永会長には骨折にもかかわらず遠いところを松葉杖をついてのご出席に、一同感激の極みであった。

先ず開会の辞に続いて「吟道精神」の唱和と「敬天愛人」の合吟の後、橋本当会長から発足から今日迄の経過と現況について挨拶があった。特にこの十年全員の高度化と共に入院手術等による障害の増加(平成九年度は四名)等々にもかかわらず出席率約八割との報告が印象的であった。当会の今日があるのは南洲吟道会の理事長・会長両先生をはじめ今日出席された方々の普段の大きなご支援はいうまでもないが、更に橋本当会長ご自身の吟道に対する熱心な取り組みとリーダーシップによるところが大きいものと思われる。続いて南洲吟道会を代表して理事長から身に残るご祝辞を頂き又、来賓を代表して若坪博祥さんから今年米寿を迎えられたご高齡にもかかわらず矍鑠としたご祝辞を頂戴した。有難うございました。

祝賀式の吟詠は先ず当会会員による「祝賀の詞」の合吟。これには有坂静鏡さんによる絢爛たる舞で舞台を一段盛り上げて頂いた。又、橋本当会会長の緒方勉神作「吟の道」は今日の式典にぴったりの和歌。更に吉永会長「の渡辺吟神作「祝辞に代えて」、吉永理事長からは「灯至夫作「日本を愛す」の祝吟を頂戴し、何れも拝聴する者の腹の底に沁みわたる力強く且つ感動的な吟詠によつて、第一部の記念式を締め上げて頂いた。続いて近藤雅之さんの音頭によつて乾杯が行なわれ、第二部のパーティー会場懇談等に移行した。

今日の会食は懇談も気軽に出来る様にと中華料理を中心にして飲み放題。夫々思い思いに席を移行しては食べたり飲んだり話ながらしている間、詩吟・カラオケがあり、軍歌・民謡果ては舞も飛び出し、第一部とは違って変わって賑やかな会場となった。平成元年発足時も理事長をはじめ多くの先生方から祝吟を頂いたが、私はそれ迄は戦時中同郷の木村岳風先生の詩吟に一度接した事がある位で、直接高段者から生の吟を聞くのは四十余年振

り、果たしてあそこ迄いけるだろうかという気持ちと、これからの勉強しようという意気込みが交錯した当時のことが、昨日の事の様に甦つて来た。それにしても何時もの事ながら吟道会の皆さんは、詩吟のみならず何んどの歌や余興がうまいのだろう。「好きこそものの上手なれ」の諺に加えて、人前でも臆せず行動する積極さが、力となつていっているのだろうか。壇上に立つ希望者が多く、その調整に司会者も悲鳴を上げる程だった様である。さて、記念会終了予定時間も迫り、当会の協成水さん作の「八王子南洲吟道会発足十周年に寄す」と題しての漢詩「清龍門下此相親、喜得如今十載春。至誠吟鑽君看取、是れ精神」(上平声十一真韻)をもち、清龍門下此相親、喜得如今十載春。至誠吟鑽君看取、是れ精神。清龍門下此相親、喜得如今十載春。至誠吟鑽君看取、是れ精神。清龍門下此相親、喜得如今十載春。至誠吟鑽君看取、是れ精神。

### 千葉地区六教場合同納吟会で打ち上げ

街中がジングルベルの音で騒がしい昨年一二月二一日(旧)午後一時より平成九年度南洲吟道会千葉地区六教場合同納吟会が、JR船橋駅に近い居酒屋に於いて開催された。当日は本会千葉地区六教場の会員三七名のうち、理事長をはじめ二七名の参加者があり、詩吟にカラオケに得意の喉のオンパレードとなる。



### 教場だより

阿佐ヶ谷教場からこんにちは 荒井鳳龍

昭和五八年一〇月開設し満一四才になりました。JR中央線阿佐ヶ谷駅から旧中杉通りを日大二高通りの方向へ約五分歩くと教場があります。開設当時はもう少し駅寄りの「布団屋」の二階で練習していましたが、布団屋の閉店に伴い現在の練習場「阿佐ヶ谷北一ノ二七ノ七有隣ビル二階」へ移転しました。平成九年一〇月末現在会員は、初心者から高段者まで七名で練習をしています。(内二名は研修生)阿佐ヶ谷教場の特色は、夏は暖房冬は冷房の中で理事長先生の指導のもと、常に基本に忠実に且つハイテク吟法を目指して練習時間一杯(午後七時〜九時)密度の濃い練習を初心者から高段者まで和気藹々の中で研修をしています。そのような訳で過去には、よその会からも数名研修に来ていました。又、南洲吟道会の幹部も数多く、見学や研修に来ていました。



# 回想「吟との出会い」

三菱教場 中島 昭 祥

病魔は突然に襲うものである。私は去る十年前前川崎工場から田町本社勤務になりましたが、移籍後間もなく集団検診で胃潰瘍と診断され、再検の胃力メウでも医師の説明では「開腹手術以外なし」とのこと、正に頭を殴られた思いであった。医師の勧めに従い自宅近くの病院で胃2/3切除の手術を受け、三ヶ月の療養後十月中旬職場に復帰し、復帰はしたものの腹に力が入らない。それは当然のこと胃が縮小し腹筋の衰えと重なって、手術前六八kgあった体重が五〇kgを割る始末。電車の座席に座れば尻が痛みこれからの見通しが暗い。なんと情けないことだろう。

そんな折、当時同じ職場であったM氏から会社の中に詩吟部があるが、体のために吟をやってみたらと熱心に勧められました。最初は見学からと見学させて頂いた。講師の洲神先生から「声をだろか」と不安な思いでいる時、言われたど自慢放送でよく流れていた聞きかじりの「川中島」の吟を教本を拝借して吟じました。何しろ手術後初めの大声であつたが、腹にはまったく力が入らない。川中島という吟はこんなにも長い詩であつたのかと。批評を頂き何もわからぬまま、今にして想えばお経のような吟であつたと思ふ。このように吟に對しても温かい励ましという言葉を感じ、部の皆さんの勧めに従い入部を決意した。

爾来月曜の練習日には、極力出席させて頂きました。体調の方も日を追う毎に力がつき、半年後にはおぼろげながら詩吟の良さが分かって来た様に感じられ、教場の同志、先生に感謝の思い一杯です。水二本で始めた音位も一年後の昇段審査時には、水一本で初段を頂いた時は喜びが込み上げる思いであつた。今でも忘れることの出来ない課題吟は「富士山」である。これもひとえに先生のご指導又良き同志に恵まれたお陰であると思ふ。それは正に人生五十年で迎えた私の肉体的精神的人生の岐路であつたと思ひ返されます。

本会の洲神・龍陽両先生を始め諸先輩の方々のご指導を頂きながら、十年目にして皆伝位まで昇段させて頂くことが出来ました。吟道に入門して腹式呼吸の詩吟発声と気を養うことが出来、健康に役立つと確信しております。私は来る三月末に定年退職となりますが退職後の人生において、常に洲神先生の言われる「吟道は終生の現役である」を肝に銘じて、健康第一、詩吟も第一の意気だこれからの人生を送ろうと思ひます。

## 小さな出来事

中町会 金武 幸 洲



今年の正月は元旦から家を留守にし、大雪となつた八日に帰宅した。年賀状の入った郵便箱を覗いたのは九日の昼頃、その中に小泉先生から頂いた賀状に十日の初吟会のお知らせがあつた。そうか、明日か。あいにく昨年頃から腰を痛め、歩行に不自由をしていたので詩吟の稽古は一休みの状態であるが、久し振りに中町会の皆さんの元気なお顔にお会いしたく、また、たまには大きな声で朗吟したい思いもあり、出席させて頂くことに決めた。

初吟会に出席するのは良いが、恒例により独吟しなげればならない。このところ吟はさっぱり不勉強、さあ困った。何を吟じようかと意を決し教本をパツと開いたところ、「荒城月夜の曲」の頁であつた。うん、これでは早う。得意の吟があるわけでもないの、決まるのは早い。昨年教場で習った覚えがあるの、録音テープに録音してあるはず、と探してみると五、六本の詩吟テープが見つかった。しかし、録音のたびに内容をメモしておけば良いのだが、つい面倒で後回し、どのテープに何が入っているのか皆目判らない。仕方ないのでその中から無造作に一本を取り出してみると半分ほどテープが回っているのが、とにかく再生してみよう。すると鳴りだしたテープが、なんと「荒城月夜の曲」ではないか。驚きつつも二回ほど聞き、これで明日の独吟も落ち着いてマイクの前に立てると心が安まつた。

吟にまつわる小さな出来事だか、小さな運というか、小さな僥倖というか。今年が良い年になりそうである。

## お知らせとお願い(本部から)

一 指導者教場出席者について  
平成十年度から、現に指導しておられる方だけでなく指導者になろうとの意欲に燃えておられる方も参加して頂くことにします。どうぞ奮ってご出席下さい。お勤め等の方の都合を考慮して、次のとおり開設しております。

日時	毎月第一火曜日 一九時から
	毎月第一金曜日 一三時半から
場所	南洲吟道会本部

- 二 師範位について  
準師範・師範・助教授・教授等の師範位は、単なる飾りではありませぬ。どうぞ遠慮なく指導者としてご活躍下さるようお願いいたします。
- 三 総本部事業への参加について  
春季の全国大会・夏季吟道大学講座等総本部の事業には、なるべく多数の方々の参加をお待ちします。
- 四 社団法人日本吟道学院正会員へのお誘い  
正会員は、日本吟道学院経営の基盤となる方々であり、学院総会への出席・発言・正会員大会への参加等の権利を有するものです。指導者又は皆伝以上の方はなるべく正会員とされることをお勧めします。ご希望があれば本会員の方は推薦します。
- 五 稽古中の私語は、努めて慎みましょう  
お稽古中、指導者が解説をしたり、吟じたりしていらるときの私語は、他の人の邪魔になります。努めて慎みましょう。
- 六 稽古中の喫煙は、ご遠慮下さい  
稽古中の喫煙は、周りの人に迷惑です。外へ出るか休憩中にどうぞ。
- 七 他の指導者の会員への批判は、慎みましょう  
本会の理事長・会長からの指導・批判は別として、他の指導者の会員に對して軽々に批判することは慎みましょう。ただし忠告は許されるでしょう。
- 八 本会の中で、いじめがあつてはなりません  
本会は敬天愛人つまり「天を敬い大自然に遵い我を愛する心を以て人を愛する」という思いやりの精神を体し、吟道を通じて報恩の心を養う且つ実践することを中心とする団体です。先輩は後輩を慈しみ、後輩は先輩を立てて互いに仲良く吟道に勤しみましょう。切磋琢磨することも大切です。

## 編集後記

平成九年六月一日に広報局会議を開き「敬天愛人」の発刊は年三回という活動計画案を作りました。その結果第十八号・十九号そして二十号と会員の皆様方のご協力により今年度の事業計画を予定通りクリアすることが出来ました。

どのご投稿も心のこもった作品ばかりで、編集者も一杯の努力をしたつもりです。十年度も南洲吟道会の益々の発展の為に広報局一同力を合わせて、より優れた広報誌となるよう頑張ります。

一年間ご講読・ご投稿ありがとうございました。  
(広報部長)

次回の原稿締切は六月末日です  
ご投稿をお待ちしております。